

「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

和名:ツマグロヒョウモン
学名:*Argyreus hyperbius*

ヒョウモンチョウは黄色の地に黒い斑点を散らす「豹柄のチョウ」で、日本には8属14種が分布しています。その多くは北日本に生息し、幼虫はスミレを食べる種が多いため、西日本でも普通に見られる存在でした。しかし近年、全国的に個体数が減少し、広島県内でも観察の機会が少なくなっています。



一方で、ツマグロヒョウモンだけは例外的に分布を拡大しています。もともと南方系のチョウで広島県では稀でしたが、現在では一般的な種となりました。分布拡大の要因としては、温暖化に加え、野生のスミレだけでなく栽培されるパンジーも食草とする柔軟な生態が考えられます。

さらに、このチョウは典型的な性的二型を示します。雄は他のヒョウモンチョウと似た模様を持ちますが、雌は翅端が黒と白で、亜熱帯域に生息する有毒種カバマダラに擬態しているとされます。ただしカバマダラは本州には分布していないため、擬態効果が本州で実際に機能しているかどうかは不明です。

【解説：秋山美文（比和自然科学博物館客員研究員）】

